

進級・卒業

進級

(1) 進級要件

Ⅷ. 諸規則「第3年次への進級に関する内規」に基づき、2年次から3年次への進級に必要な単位数は48単位です。2年次修了時点で卒業要件科目の内48単位以上修得した者は、修得科目に関わらず3年次へ進級できます。1年次から2年次へ、3年次から4年次への進級要件はありませんので、自動的に進級します。なお、1 Semester 休学した場合でも次の学年に進級します。ただし、2 Semester 連続して休学した場合は、原級にとどまります。

(2) 進級時期

進級時期は、3月(2年次秋学期)のみです。2年次春学期修了時点で進級要件を充足しても年度途中に3年次へ進級することはできません。

進級可能者は3月中旬にお知らせします。

(3) 進級不可(留年)について

進級不可(留年)となった学生については、3月中旬に保証人宛に通知します。

卒業

(1) 卒業要件

大学を卒業するためには、以下の2点を満たさなければなりません。

- ① 通算して4年(8 Semester)以上在学した者(休学期間は除く)。
- ② 「愛知学院大学学則」第8条に定められている所定の128単位(卒業に必要な単位数)を修得した者(詳細はP.50・51、2023年度以前入学者は2023年度以前履修要項を参照)。

注) 4年次修了時点で上記の条件を満たしていなければ、128単位以上修得していても卒業することはできません。

(2) 学位の授与

卒業要件を充足した者は、「愛知学院大学学則」第37条により学士(経済学)の学位が授与されます。

(3) 卒業時期

卒業時期は、3月または9月のいずれかです。

① 3月卒業

4年次秋学期修了時点で卒業要件を充足した者(上記「卒業要件」参照)。

卒業可能者は、3月上旬に保証人宛に通知します。

② 9月卒業

4年次春学期修了時点で、4年(8 Semester)以上在学し、卒業要件を充足した者(上記「卒業要件」参照)。

卒業可能者は、9月中旬に保証人宛に通知します。

(4) 卒業不可(留年)について

卒業不可(留年)となった学生については、3月上旬に保証人宛に通知します。

次年度以降の卒業に関する調査を行います。所定の用紙を履修登録期間までに名城公園キャンパス事務室へ提出してください。

進級・卒業要件充足状況の確認方法

WebCampusで、履修登録をした科目の進級・卒業要件充足状況を確認することができます。

カリキュラム概要

経済学科(2024年度以降学生)の卒業要件単位について

卒業するためにはⅧ.諸規則「愛知学院大学学則」第8条に定める次の要件を満たす必要があります。

教養教育科目 36 単位	+	専門教育科目 76 単位	+	キャリア教育科目 2 単位	+	グレーゾーン 14 単位	=	卒業要件単位 128 単位
-----------------	---	-----------------	---	------------------	---	-----------------	---	------------------

○卒業要件の確認ポイント

- ・表中の○内にある数字は「単位数」を表しています。
- ・**○**は「必修科目」で、卒業までに修得する必要があります。
- ・「要件単位」は分野ごとに修得する必要がある単位数です。

履修科目ごとの分野及びその要件単位を確認のうえ、計画的に単位を修得してください。

教養教育科目 (36 単位)

分野	要件単位		1年次	2年次	3年次	4年次
	分野合計	内訳				
宗教学	4単位	4単位	宗教学Ⅰ・Ⅱ 各②			
教養基幹科目	22単位 (注1)	4単位	教養セミナーⅠ・Ⅱ 各①	教養セミナーⅢ・Ⅳ 各①		
		4単位	心理学Ⅰ・Ⅱ、哲学Ⅰ・Ⅱ、論理学Ⅰ・Ⅱ、文学Ⅰ・Ⅱ、美術Ⅰ・Ⅱ 各②			
		4単位	法学Ⅰ・Ⅱ、政治学Ⅰ・Ⅱ、社会学Ⅰ・Ⅱ、教育学Ⅰ・Ⅱ、歴史学Ⅰ・Ⅱ、地理学Ⅰ・Ⅱ 各②			
		4単位	数学Ⅰ・Ⅱ、統計学Ⅰ・Ⅱ、物理学Ⅰ・Ⅱ、化学Ⅰ・Ⅱ、生物学Ⅰ・Ⅱ 各②			
		4単位	仏教と現代社会Ⅰ・Ⅱ、禅と人間Ⅰ・Ⅱ、生命に関する諸問題Ⅰ・Ⅱ、人間行動の理解Ⅰ・Ⅱ、人間の尊厳と平等Ⅰ・Ⅱ、日本の文化と社会Ⅰ・Ⅱ、アジアの文化と社会Ⅰ・Ⅱ、ヨーロッパの文化と社会Ⅰ・Ⅱ、英語圏の文化と社会Ⅰ・Ⅱ、人間と環境Ⅰ・Ⅱ、情報と社会Ⅰ・Ⅱ、産業と科学Ⅰ・Ⅱ、ソフトウェア概論Ⅰ・Ⅱ、健康の科学 各②			
外国語科目	8単位	4単位	英語Ⅰa・Ⅱa、英語Ⅰb・Ⅱb 各①			
		2単位	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、中国語Ⅰ・Ⅱ、韓国語Ⅰ・Ⅱ、スペイン語Ⅰ・Ⅱ 各① (1言語を選択)			
		2単位	ドイツ文化事情、中国文化事情、韓国文化事情、スペイン文化事情 各② (1科目を選択)			
健康総合科学科目	2単位	2単位	スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ 各①			
合計	36単位	(注1)「教養基幹科目」において、22単位を超えた単位は「グレーゾーン」に算入される。 ※ 外国人留学生の外国語科目の履修についてはP.15を参照。				

グレーゾーン (14 単位)

要件単位	1年次	2年次	3年次	4年次			
					14単位	英会話Ⅰ・Ⅱ、メディア英語Ⅰ・Ⅱ、英語表現法Ⅰ・Ⅱ、英語読解法Ⅰ・Ⅱ、実践英語Ⅰ・Ⅱ 各① 英会話Ⅲ・Ⅳ、メディア英語Ⅲ・Ⅳ、英語表現法Ⅲ・Ⅳ、英語読解法Ⅲ・Ⅳ、実践英語Ⅲ・Ⅳ 各①	ドイツ語Ⅰ(基礎)・Ⅱ(基礎) 各① 中国語 フランス語(注2) 韓国語 スペイン語

(注2) スペイン語はⅠ・Ⅱ(基礎)、Ⅲ・Ⅳ(総合)のみ開講

I 大学で学ぶために

II 履修関連事項

III 授業・試験・成績

IV カリキュラム

V 諸資格の取得

VI カリキュラムマップ

VII 諸規則

カリキュラム概要

専門教育科目 (76 単位)

分野	要件単位		1年次	2年次	3年次	4年次		
	総計	内訳						
基礎科目	20		ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ 経済数学Ⅰ・Ⅱ キャリア英語Ⅰ・Ⅱ 情報リテラシーA・B 各②					
基幹科目	16		経済統計学A・B 経済学史A・B 一般経済学A・B	経済政策論A・B 社会政策論A・B 日本経済論A・B	国際経済学A・B 金融論A・B 財政学A・B 各②			
発展科目	76 単位 ①	第一類	ミクロ経済学Ⅲ マクロ経済学Ⅲ 公共経済学A・B 農業経済学A・B 現代産業論A・B	国際貿易論A・B 国際金融論A・B 開発経済学A・B 会計学A・B 租税制度論A・B	金融システム論 地域経済論 経済情報処理A・B 国際法A・B 各②	欧米経済論 多国籍企業論 各②		
		第二類		計量経済学A・B 日本経済史A・B 西洋経済史A・B 労働経済学A・B 環境経済学A・B 都市経済学A・B 地方財政論A・B 経済情報論A・B 社会思想史	環境政策論 農業政策論 企業経済学 社会保障論 産業組織論 中小企業論 金融政策論 ファイナンス論 アジア経済論			
		第三類		総合民法 租税法A (基礎) 企業と法	行政法Ⅰ (総論) A 各②	財務会計論Ⅰ・Ⅱ 国際会計論Ⅰ・Ⅱ マーケティング論Ⅰ・Ⅱ グローバル・マーケティング論	行政法Ⅰ (総論) B 行政法Ⅱ (各論) 各②	
		第四類	必修を含め 14単位	中部経済論 地域ビジネス論	エリア・リサーチⅠ エリア・リサーチⅡ	エリア・リサーチⅢ 各②	専門演習Ⅰ② 専門演習Ⅱ④ 専門演習Ⅲ④ 卒業論文④ 注2016年度以降入学者のみ 専門講読Ⅰ (英語)・Ⅱ (英語) 各② 専門講読Ⅲ (英語)② キャリア英語Ⅲ・Ⅳ、経済学特講Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ 各② ビジネス英語A・B 経済学特講Ⅰ 経済学特講Ⅱ 経済学特講Ⅲ 各②	

※76単位を超えて修得した科目は「グレーゾーン」に算入される。

キャリア教育科目 (2 単位)

分野	要件単位	1年次	2年次	3年次	4年次
キャリア教育科目	2	キャリア・デザイン①②	キャリア・デザインⅡ・Ⅲ② 産官民提携講座Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ 各②	インターンシップ②	

※2単位を超えて修得した科目は「グレーゾーン」に算入される。

自由選択科目 (卒業要件に算入せず)

自由選択科目	卒業要件に算入しない	1年次	2年次	3年次	4年次
		キャリア・デザイン②	※サービスマーケティング実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各①、課題解決型演習Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各②、地域連携学B・C・D 各②	※長期インターンシップ④	

※2015年度以降入学者のみ履修可能
(詳細についてはP.54・55を参照)

Ⅰ. 大学で学ぶために

Ⅱ. 履修関連事項

Ⅲ. 授業・試験・成績

Ⅳ. カリキュラム

Ⅴ. 諸資格の取得

Ⅵ. カリキュラムマップ

Ⅶ. 諸規則

地域・社会連携コースの説明

～新しいことに挑戦し、視野を広め、課題解決する力を身につけたい人へ～

地域・社会連携コースは学部授業とは別に社会人基礎力を身につけることを目的とし、1年次より設定したAGU独自のカリキュラムです。どの学部の学生も自由に参加できます。

1 地域・社会連携コースの特色

●身に付く能力

経済産業省が提唱している、人生100年時代に求められるスキル「社会人基礎力」を身につけ、仕事での活躍はもちろん、生活する地域でも活躍する「地域貢献」型の人材を目指しましょう。

●社会人基礎力とは

●前に踏み出す力(アクション) ～一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む～

主体性:物事に進んで取り組む力
働きかける力:他人に働きかけ巻き込む力
実行力:目的を設定し確実に行動する力



●考え抜く力(シンキング) ～疑問を持ち、考え抜く～

課題発見力:現状を分析し目的や課題を明らかにする力
計画力:課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力
創造力:新しい価値を生み出す力



●チームで働く力(チームワーク) ～多様な人々とともに、目標に向けて協力する～

発信力:自分の意見をわかりやすく伝える力
傾聴力:相手の意見を丁寧に聴く力
柔軟性:意見の違いや立場の違いを理解する力
状況把握力:自分と周囲の人々や物事との関係を理解する力
規律性:社会のルールや人との約束を守る力
ストレスコントロール力:ストレスの発生源に対応する力



参考:経済産業省 「人生100年時代の社会人基礎力」

●コーディネーターによる学生支援

様々な協力者との連携により授業の内容が構成されています。コーディネーターは授業の担当教員でもあり、プログラムの調整、学生の指導を行います。各授業について、履修相談から活動中の困りごとなど適宜、相談にのります。

2 科目の説明

I. サービスラーニング実習 I～IV

行政・非営利団体(NPO)・商店街・企業と連携し様々な社会課題を知り、活動するプログラム。連携先の団体と活動する入門的な実習科目です。事前に専門的な知識を身に付ける必要は無く、活動を通して理解を深めます。例えば、高齢化による認知症の問題を考えるプログラムでは、行政の取組みや当事者との交流を行います。ボランティアの活動、講義形式の授業、グループワーク、打ち合わせなど1つのプログラム(実習科目)の中に様々な活動の形態があります。活動と思考を繰り返しながら社会課題に取り組む意義を理解します。何かやってみたいと思う気持ちがあれば参加できます。

II. 地域連携学A

地域・社会の問題に取り組む実務家を講師に招き、講義を行います。実務家とは、非営利団体(NPO)、企業、行政などで働く方々です。講義を聴くだけでなく、グループでのディスカッションや講師との対話から、学びと気づきを共有します。

III. 地域連携学B～D

地域連携学B～Dはフィールドワークを行うプログラムです。地域連携学Bでは、2024年の能登半島地震により被害を受けた門前町をフィールドとして、復興の現状を知り、地域の方々との交流を通じて学び気づきを得ます。地域連携学Cでは、2011年の東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故により避難区域に指定されていた福島県川俣町に赴き、避難解除後の復興の現状を知り、地域の方々との交流を通じて学び気づきを得ます。地域連携学Dでは北海道の厚沢部町で、過疎化が進む地域でファームステイをしながら交流を通して町が抱える過疎化の課題解決を考え実践します。

IV. 課題解決型演習 I～IV

課題解決に必要な基礎素養を学ぶとともに、NPO、商店街・企業グループ・学校等と連携、実務家の方々と一緒に地域の課題解決プロジェクトを企画立案することを通して、調査、分析、提案という課題解決のスキルの習得を目標とする企画実践型のプログラムです。「名古屋城三の丸地区の関係づくり」プロジェクト等、社会連携センターの支援を受けながら連携先との協議を踏まえ、新しい地域づくりに挑戦します。

地域・社会連携コースの説明

～新しいことに挑戦し、視野を広め、課題解決する力を身につけたい人へ～

3 地域・社会連携コース科目の詳細

科目名	授業内容	開講年次	単位数	評価方法
サービスマーケティング実習 I～IV	各テーマによるボランティア活動 事前学習 2日～3日の実習 振り返り会 レポート作成	1年次より履修可能	1単位 (卒業要件単位数に算入されない)	認定
地域連携学A (産官民提携講座IV)	実務家講師による講義 15回の講義形式の授業 記述式試験	2年次より履修可能	2単位 (卒業要件単位)	総合評価
地域連携学B～D	地域に赴きフィールドワーク 事前学習 2日～7日現地での活動 振り返り会 レポート作成	1年次より履修可能	2単位 (卒業要件単位数に算入されない)	認定
課題解決型演習 I (産官民提携講座V)	実務家講師による講義 15回の講義形式の授業 グループワークによる発表	2年次より履修可能	2単位 (卒業要件単位)	総合評価
課題解決型演習 II～IV	各テーマによるプロジェクト演習 調査、グループワーク、発表 ※プロジェクト毎に活動形態は異なります。	1年次より履修可能	2単位 (卒業要件単位数に算入されない)	認定

4 履修方法について

- ①WebCampusにて募集が案内されたのち、社会連携センターのホームページ(<https://scc.agu.ac.jp/>)から申し込んでください。春(4月)・秋(9月)頃に募集します。
 - ②定員を越える応募があった場合は抽選にて人数調整を行います。
 - ③受講が決まったら、受講開始までにコーディネーターの連絡に従い受講の準備を進めてください。
 - ④履修についての質問は下記アドレスまで問い合わせください。
社会連携センター メールアドレス m-ccc@dpc.agu.ac.jp
- ※商学部、経営学部、経済学部、法学部で開講している「産官民提携講座IV」「産官民提携講座V」を受講する場合は、Web履修抽選より申込してください。

諸資格の取得

諸資格の取得

経済学部で取得できる以下の諸資格の取得を希望する学生は、卒業に必要な単位のほかに定められた単位を修得しなければなりません。教職課程は1年次生、司書課程は2年次生、司書教諭課程は3年次生から履修することができますが、学費とは別に課程登録料が必要になります。詳細については、それぞれの説明会で説明しますので、希望者は必ず出席してください(『資格課程履修要項』参照)。

- ・高等学校教諭1種免許状(公民)
- ・高等学校教諭1種免許状(地理歴史)
- ※2017年度以前入学者は法学部現代社会法学科の地理歴史課程を修めることにより取得可能。
2018年度以降入学者は文学部歴史学科の地理歴史課程を修めることにより取得可能。
- ・図書館司書資格
- ・学校図書館司書教諭資格

社会福祉主事

厚生労働省の定める「社会福祉に関する科目」を3科目以上修得し卒業することにより、「社会福祉主事資格(任用資格)」を取得することができます(三科目主事)。社会福祉主事とは、福祉施設や行政機関で援助や保護が必要な人に相談・援助・指導を行う専門家のことです。該当科目などの詳細は名城公園キャンパス事務室に問合せください。

仏教専修科について

本学に在籍する文学部宗教文化学科以外の宗内生(曹洞宗寺院の子弟)で、在学中仏教専修科に籍を置き、所定の単位を修得し、宗務庁で規定する特殊安居の回数以上を修了したものは、曹洞宗二等教師の補任を受けることができます。詳細な必要科目については、文学部要項で確認できます。

エクステンションセンター

皆さんの就職試験および各種資格試験対策を支援するために、エクステンションセンターがあります。エクステンションセンターでは、公務員採用試験対策(国家・地方公務員)をはじめ、行政書士・宅建・簿記・FP技能・証券外務員一種・旅行業務取扱管理者や保育士など専門性が高い講座を開講しています。

他方、マナー・プロトコール検定などで習得するビジネスマナーやコミュニケーション力は幅広い職業で役立ちます。MOS (Word,Excel,PowerPoint)やTOEIC®は今後必要なスキルです。この機会に始めてみませんか。さらに、SPI (企業が採用試験で用いる筆記テスト)対策まで、皆さんのニーズに応えられる幅広い講座を用意しています。

各講座についての詳細は、オリエンテーションで配布している「2026年度 公務員・資格 エクステンション講座」を参照してください。またWebCampusのエクステンションセンターのタブから、Webパンフレットも見ることができます。その他、4月上旬には、各専門学校の先生による合同説明会や、動画案内もあります。日程等は、大学アプリやWebCampusを通じてお知らせします。なお、ご意見・ご希望などがありましたら日進キャンパスのエクステンションセンター (3号館1階)または名城公園キャンパス事務室までお気軽にお申し出ください。